

県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	3	11	百日咳	1	0
RSウイルス感染症	0	1	ヘルパンギーナ	266	270
咽頭結膜熱	16	22	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	36	39
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	56	64	急性出血性結膜炎	0	0
感染性胃腸炎	242	269	流行性角結膜炎(はやり目)	20	15
水痘	36	63	細菌性髄膜炎	0	0
手足口病	22	16	無菌性髄膜炎	0	2
伝染性紅斑(りんご病)	3	3	マイコプラズマ肺炎	3	4
突発性発しん	43	41	クラミジア肺炎	0	0

ヘルパンギーナ
報告が多い感染症
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

- ヘルパンギーナは、報告数266件(前週報告数270件)と減少した。地区別では、菊池、宇城、天草に多く報告がみられる。年齢別では、1歳の66件を最多に10～14歳以下からの報告である。
- 感染性胃腸炎は、報告数242件(前週報告数269件)と減少した。地区別では、有明、山鹿、菊池に多く報告がみられる。年齢別では、1歳の37件を最多に幅広い年齢層からの報告である。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、報告数56件(前週報告数64件)と減少した。地区別では、宇城、菊池、山鹿に多く報告がみられる。年齢別では、5歳の9件を最多に幅広い年齢層から報告されている。

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
熊本市保健所			5	19	69	14	3		17		68	10		16				1
山鹿保健所				4	15	1					4	1	*	*				
菊池保健所			5	9	30	9	9		11	1	52	1		2				
阿蘇保健所													*	*				
御船保健所					4								*	*				
八代保健所	1			1	11	8		2			26							
水俣保健所				2	4		1		1		11	1	*	*				
人吉保健所				5	17		1		2		12		*	*			2	
有明保健所			5	6	51	3	5	1	8		28	6		2				
宇城保健所	1			7	17	1	2		1		29	3						
天草保健所	1		1	3	24		1		3		36	14						
計	3	0	16	56	242	36	22	3	43	1	266	36	0	20	0	0	3	0

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0～5ヶ月	6～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	
インフルエンザ	3												1	1								1
小児科定点年齢	合計	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳以上							
RSウイルス感染症	0																					
咽頭結膜熱	16		2	1	2	1	2	4	3	1												
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	56			3	5	7	8	9	4	2	5	4	6	1	2							
感染性胃腸炎	242	7	19	37	22	22	22	18	21	15	7	4	21	4	23							
水痘	36	2	3	9	9	6	5			1		1										
手足口病	22		1	10	7		2	1							1							
伝染性紅斑	3			1	1				1													
突発性発しん	43	1	24	15	3																	
百日咳	1	1																				
ヘルパンギーナ	266	3	35	66	51	39	30	19	9	4	5	3	2									
流行性耳下腺炎	36			1	6	1	6	6	9	2	1	1	1	1	1							
眼科定点年齢区分	合計	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上		
急性出血性結膜炎	0																					
流行性角結膜炎	20					2	1	1	1	1		1	1	1	1	3	3	1	2	1		
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上					
細菌性髄膜炎	0																					
無菌性髄膜炎	0																					
マイコプラズマ肺炎	3		1	1	1																	
クラミジア肺炎	0																					

大きな流行が発生
 又は継続しつつある地域
 ● ヘルパンギーナ：菊池、宇城、天草
 ● 感染性胃腸炎：有明、山鹿、菊池
 ● A群溶血性レンサ球菌咽頭炎：宇城、菊池、山鹿

災害発生時の衛生管理

豪雨などで災害を受けた地域は、消化器感染症や呼吸器感染症、あるいは食中毒が発生する可能性が高くなりますので、衛生管理に注意し、病気を予防することが大切です。避難所にいらっしゃる方だけでなく、自宅でも片づけをされる方や、ボランティアに行かれる方等も以下の点に注意して感染症や食中毒の予防に努めましょう。

1. 手洗いについて
 - (1)トイレの後、汚物の取扱い後、調理や食事の前には、石鹸と流水でしっかりと手を洗うようにしましょう。
 - (2)流水がない場合は、逆性石けん液を手にもみ込み、その後乾燥させることである程度の効果が期待できます。また、他の消毒液がある場合は、それらを上手に活用しましょう。手の爪を短く切っておく事も清潔保持に効果があります。
 - (3)外出から帰ったら、必ず手洗いとうがいを行いましょ。うがい液がない場合は、水又は塩水などで代用して下さい。
2. 食べ物について
 - (1)調理をする場合は清潔に努め、できる限り衛生的な環境で、新鮮な材料、清潔な器具によって調理しましょう。
 - (2)生ものは避けて、加熱したものを食べるようにしましょう。
 - (3)調理したものは、早めに食べるようにしましょう。やむを得ず保管する場合は、再加熱をしっかりと行いましょう。
 - (4)食品は、温度が上がらない冷暗所に保管しましょう。
 - (5)食品のある場所に、ペットなどの動物を近づけないようにしましょう。
 - (6)湧水や井戸水は、汚染の可能性があるので、飲まないようにしましょう。やむを得ない場合は、必ず煮沸しましょう。
 - (7)提供された食品は、消費(賞味)期限内に食べましょう。
3. その他
 - できる限り休養を取り、具合が悪くなったなら、早めに医師に相談しましょう。

